

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書

資料1

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・未着手

A・・・十分な成果を得られた B・・・一定の成果を得られた
 C・・・想定した成果に少し届かなかった D・・・思うような成果を得られなかった
 E・・・評価不能

基本方針	基本目標	達成度別事業数					充実度別事業数					自己評価・今後の方向性	新潟市スポーツ推進審議会 (スポ柳都にいがたプラン推進会議) 評価(ご意見・ご要望等)
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E		
健康スポーツ	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	7	6	7	0	2	7	12	1	0	2	○ コロナ禍が長引く中にあっても、感染対策を徹底、ウィズコロナ時代に即した安心安全な形でほとんどの事業を無事に開催することができた。一方、スポーツイベントの参加者数等が目標に届かない事業が複数あったが、これは、自粛ムードや感染を懸念する市民感情による影響が色濃く残っていたためと考えており、コロナ収束・5類移行に伴い改善していくものととらえている。 ○ アフターコロナを迎えつつある中、「市民のスポーツ実施率」のさらなる向上のため、イベントの参加者数回復や、中止・縮小を余儀なくされていた事業の再開に向け、広報の強化等に積極的に取り組んでいく。	○ 事務局の「自己評価・今後の方向性」とおり
競技スポーツ	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。	1	3	0	1	0	1	3	0	1	0	○ 国際大会等出場者激励金の支給件数の大幅な増加や障がい者スポーツ大会への選手派遣再開等、スポーツの回復傾向がより顕著になった。強化事業については、コロナ禍にあっても一部制約を受けつつも、継続的に実施しており、ジュニアを中心に着実に競技力の向上が図られている。 ○ コロナの影響で縮小を余儀なくされた事業の再開検討も含め、引き続きジュニア強化や障がい者スポーツの普及に寄与する事業を実施していく。	○ ジュニアの強化に力を入れており、成果も上がっているとの点は評価できる。指導者の尽力によるところも大きいと思われるため、指導者への支援も積極的に行うとよいのでは。 ○ 障がい者スポーツの競技力の向上や社会人アマチュアスポーツの支援については、県が行う事業もあるため、県と市でうまく役割分担ができるとよいのでは。
みるスポーツ	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレーを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。	4	1	0	0	1	4	1	0	0	1	○ コロナの状況を的確に見極め、ほぼすべての事業を再開・実施できたことに加え、積極的な告知や働きかけが功を奏し、新規の参加者・観戦者を多く迎えられるなど、参加者数等の目標も概ね達成できた。感染禍で様々な機会が制限される中において、トップアスリートのプレーをみる機会、交流する機会を広く提供できたことは、非常に有意義であったととらえている。 ○ WEBやSNSを活用した広報や旧来の広報を柔軟に利用する等、ターゲットに合った効果的な告知の実施に取り組んでいく。 ○ 新潟市文化・スポーツコミッションを中心とした各団体と連携つつ、合宿や大会の誘致に一層力を入れて取り組んでいく。	○ 事務局の「自己評価・今後の方向性」とおり
支えるスポーツ	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。	2	4	2	2	0	1	8	1	0	0	○ スポーツに親しめる環境づくりとして、ハード面では引き続き、必要な補修工事を行いながら中長期的な大規模改修や集約化の検討を丁寧に行う。併せて新たにスポーツ施設の「未来構想会議」を立ち上げ、有識者等による施設のあり方検討を進めていく。またソフト面では、近年中止されていた各種イベントが再開傾向にあることから、それを支えるボランティアの育成・活動再開を機を逃さず実施し、地域でスポーツを支え、親しめる環境づくりを促進する。	○ 事務局の「自己評価・今後の方向性」とおり
スポーツ情報ネットワーク スポーツ医科学支援体制	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。	0	1	2	0	0	1	2	0	0	0	○ スポーツ医科学支援体制については、にいがたスーパージュニア育成事業である3団体を対象として事業を実施し指標のとおり達成した。引き続き、強化指定選手を医科学面でサポートしていく。 ○ スポーツ情報の発信については、引き続き迅速かつ適切に提供していくとともに、ニーズが高いイベント関係の情報の充実も図っていく。	○ 体育施設からのイベント等の情報発信(インターネット、SNS等)が市民目線から見ても、よく行われており評価できる。

※各事業の自己評価は、別紙参照

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価							R5数値目標	
			R4数値目標	R4実績	(参考)R3実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性		理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	新潟シティマラソン	市民の健康増進や本市の魅力発信を図ることを目的に、本市を象徴する市街地や豊かな水辺をコースとして12,000人のランナーを迎えて開催する本市の一大スポーツイベント。4年ぶりとなるマラソン、ファンランに加え新種目「ユニバーサルラン」を感染症対策を徹底した中で実施。エントリー者数は目標にとどかなかったものの、参加者からは笹岡子やコンヒカリなど新潟らしいエイド食や市民ボランティアの対応に好評をいただいた。	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン:400人	エントリー者数 ・マラソン:4,256人 ・ファンラン:2,409人 ・ユニバーサルラン:429人	エントリー者数 871人 (代替イベント)	C	B	開催可否判断による募集告知の遅れや新型コロナウイルス感染拡大懸念の影響などにより、目標人数には届かなかったものの、ランニングポータルサイト「RUNNET」における参加ランナーの評価が71.5と前回大会(2018大会)を上回ったため。	2	定員割れとなったものの、4年ぶりの大会を新型コロナウイルス対策を徹底して安心・安全に開催するうえでは不幸中の幸いであり、天候にも恵まれ、大きな事故無く、成功裏に終了することができた。 多くの市民から愛され、そしてより一層健康増進、地域活性化、本市の魅力発信に寄与する「新潟シティマラソン」にしていきたい。	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン:400人
			41,000	41,000	24,145						
2	少年少女スポーツ大会	児童の健全育成や親睦、コミュニケーション能力の育成を図ることを目的として、昭和40年より開催している。 令和4年8月20日～10月1日 種目:バスケ・バレー・野球・サッカー 参加チーム総数:270チーム	エントリーチーム数 野球:60チーム サッカー:80チーム ミニバス:140チーム バレー:30チーム	エントリーチーム数 野球:58チーム サッカー:68チーム バスケ:119チーム バレー:25チーム	エントリーチーム数 バスケ(5年生):23チーム バレー(男子):30チーム	C	B	エントリーチーム数は目標数値に届かなかったものの、新型コロナウイルス感染症対策として、全競技共通、競技独自の対策を図り大会を実施した。	2	令和5年度も引き続き4競技(野球、サッカー、バスケ、バレー)の開催を予定している。基本的な感染症予防対策を施しながら、他の小学生のスポーツ大会に負けず劣らずの大々的なスポーツ大会にしたい。	エントリーチーム数 野球:60チーム サッカー:80チーム ミニバス:140チーム バレー:30チーム
			220	220	220						
3	早起き野球大会	早起き野球を通して、市民が積極的にスポーツに親しみ、スポーツ振興と相互の親睦を図ることにより豊かな社会生活に寄与することを目的に開催。 【第57回新潟市早起き野球大会】 開催期間:5月15日～7月24日 会場:鳥屋野運動公園野球場ほか 6会場	エントリーチーム数 100チーム	エントリー数 87チーム	エントリーチーム数 91チーム	C	B	エントリーチーム数は目標数値に達しなかったものの、感染対策を徹底しながら無事閉会式まで終えることができた。	2	今後も日本有数の参加数を誇る本大会をさらに魅力ある大会にし、野球を通じて市民がスポーツに親しめる場を提供できるように努める。	エントリーチーム数 100チーム
			2,000	1,600	2,000						
4	新潟シティライド	自転車を有効に活用して市民の健康の維持・増進とサイクリングスポーツの普及・促進を図ることを目的として、市内をサイクリングしながらエイドステーションで新潟ならではの食を堪能できる新潟シティライドを開催した。 開会式の中止やスタート時間を分散させるなど感染対策を徹底して実施した。 開催日:6月19日(日) ロングライド(120km)・ショートライド(33km)	エントリー者数 ロングライド:400人 ショートライド:50人	エントリー者数 ロングライド:525名 ショートライド:49名	エントリー者数 ロングライド:428人 ショートライド:50人	A	A	エントリー者数も目標数値に到達し、基本的な感染症対策を実施した上で大会を開催できた。	2	令和5年度は前年度の方式を踏襲、また反省点を改善し、ミドルライドの開催も含めコロナ禍前の通常大会規模で開催したい。	エントリー者数 ロングライド:600人 ミドルライド:100人 ショートライド:50人
			100	100	100						
5	新潟ヒルクライム	岩室地域の魅力を全国に発信し、交流人口の拡大を図るとともに、サイクリングスポーツの振興を目的とした自転車イベント。1日目に弥彦競輪場を4周回する1マイルタイムトライアル、2日目に岩室温泉をスタートし弥彦山スカイラインを麓から頂上まで自転車で駆け上がるヒルクライムを行う。 開催日:9月3日(土)、9月4日(日) 1マイルタイムトライアル:弥彦競輪場を4周回(距離1.6km) ヒルクライム:岩室温泉から弥彦山頂(距離7.6km/5.3km)	エントリー者数 350人	エントリー数 292名 ※2日間とも参加76名、ヒルクライムのみ参加216名	中止	C	B	エントリー者数は目標数値に達しなかったものの、感染対策を徹底しながら大会を開催できた。	2	令和5年度は前年度の方式を踏襲、及び昨年度の反省点を踏まえ、通常大会実施に向けた足がかりとなる大会にしたい。	エントリー者数 600人
			900	900	900						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価							R5数値目標	
			R4数値目標	R4実績	(参考)R3実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性		理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
6	氷上スポーツ体験学習推進事業	新潟市アイスアリーナで小学生等に氷上スポーツを体験させることで氷上スポーツ愛好者の底辺拡大を図るため、市内小学校等に校外活動時の施設利用料金と送迎車両借上げ料に係る経費を助成した。	実施校数 70校	実施校数 63校(69学級)	実施校数 49校(51学級)	C	B	新型コロナウイルスによる実施中止校は1校にとどまり、コロナ前を上回る当事業開始以来最多の結果となった。実施後の児童の感想として、「今度は家族と一緒にいきたい(既に家族と利用した)」、「初めての体験で楽しかった」という声が寄せられ、児童にとってよい機会になったと考える。	3	引き続き、新規に事業を実施する学校を増やすため、各校の年間計画の策定に配慮し、周知を早める。あわせて、市外からの校外学習利用を促進するため、近隣市町村への利用案内を行う。	実施校数 64校
				1,688	1,572						
7	氷上スポーツ教室事業	国内外で活躍する選手や講師を招聘し、アイスホッケー・フィギュアスケートの教室・体験会を行った。	氷上スポーツ教室事業 実施数 3回	氷上スポーツ教室事業 実施数 5回	氷上スポーツ教室事業 実施数 1回	A	B	新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、前年度に比べ多くの教室を実施することができた。昨年度以前にも実施していたアイスホッケー教室に加え、新たに初心者を対象としたスケート教室を実施し、新たな試みも行った。	3	ジュニア層の競技力向上を目的に競技団体と連携を図り実施するとともに、愛好者の裾野の拡大のため、積極的に初心者向けの体験教室を実施する。	氷上スポーツ教室事業 実施数 5回
				820	46						
8	市民綱引き大会 (スポーツ協会)	冬期間のスポーツとして位置づけ、地域スポーツの振興と市民相互の親睦を図るとともに健康維持・増進を目的に平成元年度より開催している。 令和4年度の開催は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一般の部を中止とし小学生の部のみ実施した。 ・一般の部(混成) ・小学生の部(低・中学年の部、高学年の部)	エントリーチーム数 一般の部:15チーム 小学生の部:30チーム	エントリーチーム数 一般の部:中止 小学生の部:41チーム	0	C	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小学生の部のみ開催となったが、指標以上の参加チームとなり、地域スポーツの普及振興のほか、参加者相互の交流が図れた。	2	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催中止や種別の制約などもあったことから、4年振りとなる通常開催ができるよう、早期のうち実行委員会と連携を図り実施する。	エントリーチーム数 一般の部:15チーム 小学生の部:40チーム
			524	224	224						
9	スポーツ体験フェスタ (スポーツ協会)	市民が気軽にスポーツを体験することにより、新たなスポーツ人口の発掘・底辺拡大を目的に、スポーツレクリエーションを開催した。	参加者数 700人	参加者数 841人	参加者数 760人	A	A	スポーツの裾野の拡大に向けてより多くの人にその魅力を伝えるため、幼児・小学生などを対象に50mタイムトライアルのほか、ホッケー・陸上・野球・ラグビー・相撲・剣道・スキーの各体験会を実施し、スポーツ人口の底辺の拡大向上を図った。 スポーツ少年団たすきリレーマラソンでは、あらたに保護者チームも加え大人と子供たちの交流戦として実施。イベントを通じスポーツ少年団登録への啓発とともにチーム間交流が促進され活性化が図れた。	2	今後も、スポーツの普及・拡大に向けて、更に加盟団体等と連携を図り事業を継続して実施する。	参加者数 800人
			1,300	752	760						
10	市民サッカー大会 (スポーツ協会)	ワールドカップサッカー新潟大会の開催を通して、生涯スポーツの普及と市民相互の親睦を図り、健康の維持増進を目的に、開催する。	エントリーチーム数 60チーム 参加者数 800人	エントリーチーム数 61チーム 参加者数 800人	エントリーチーム数 59チーム 参加者数 770人	A	B	参加者相互の交流のほか、生涯スポーツの普及振興並びに健康増進を図った。	2	今後も実行委員会と連携し、充実した大会が開催できるよう内容を協議し実施する。	エントリーチーム数 60チーム 参加者数 800人
			500	500	500						
11	市民総合体育祭 (スポーツ協会)	春季と秋季の年2回、スポーツ協会加盟団体がスポーツの普及振興と競技力向上を目的に開催する。	開催種目数 春季:20種目 秋季:25種目	開催種目数 春季:23種目 秋季:30種目	開催種目数 春季:20種目 秋季:23種目	A	B	新型コロナウイルスの感染状況が減少傾向により、指標を上回って開催。市民の健康増進と競技力の向上が図れた。	2	競技の普及・振興ならびに競技力の向上に寄与することから今後も加盟団体と連携を図り事業を継続して実施する。	開催種目数 春季:25種目 秋季:30種目
			1,350	1,150	910						
12	新潟県障がい者スポーツ大会開催事業	新潟県とともに、全国障害者スポーツ大会の派遣選考大会である「新潟県障害者スポーツ大会」を開催した。	参加者数 個人競技:7種目・250人 団体競技:5種目・160人	参加者数 個人競技:7種目282名 団体競技:2種目97名	参加者数 個人競技:7種目・255人 団体競技:5種目・160人	B	B	新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、各競技を開催し、個人競技においては指標以上の参加者数を募ることができた。	2	令和5年度は鹿児島県で特別全国障害者スポーツ大会が開催予定である。本大会は派遣選手の選考材料ともなる大会であり、より多くの方に大会の存在を認知してもらえるよう各方面への周知を行っていきたい。	参加者数 個人競技:7種目・250人 団体競技:5種目・160人 388
			388	3,992	3,992						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。			
基本目標	子どもから高齢者,障がい者までが生涯にわたって,スポーツ・レクリエーションを通じて,健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。	A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成 C・・・指標を少し下回った E・・・評価不能	B・・・指標とおり達成 D・・・指標を大きく下回った	A・・・十分な成果を得られた B・・・一定の成果を得られた C・・・想定した成果に少し届かなかった D・・・思うような成果を得られなかった E・・・評価不能

1・・・充実	2・・・現状維持	3・・・内容見直し
4・・・縮小	5・・・廃止・休止	6・・・完了
7・・・その他		

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価							R5数値目標	
			R4数値目標	R4実績	(参考)R3実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性		理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
13	シニアはつらつにいがた 総おどり事業 (高齢者支援課)	「総おどり体操」について、講習会の開催や指導スタッフの派遣、自宅でも楽しめるオンライン講習会を実施し、高齢者が健康づくり・介護予防・生きがいづくりに気軽に取り組める機会を提供した。また、指導者養成講座を開催し、市民による自主的な広まりを推進した。	講習会等参加者数 延4,437人	講習会等参加者数 延5,675人	講習会等参加者数 延4,910人	A	A	新型コロナウイルスの影響で講習会を中止にする時期もあったが、それ以外の時期では毎回多くの方の参加があり、目標を上回ったため。	2	健康づくり等への関心が低い方への普及を図るため、関係機関・団体との協力を一層強化して活動を進めていく。	講習会等参加者数 延4,437人
			4,656	4,650	4,234						
14	全国健康福祉祭事業 (高齢者支援課)	新潟市予選会で選出された選手に対し、全国健康福祉祭かながわ大会に参加するための派遣に関する費用の助成を行う。なお、令和4年度はコロナ禍であるものの、2年ぶりの開催となり、新潟県と歩調を合わせ、新潟市代表を派遣することができた。	派遣人数 95人	派遣人数 91人	派遣人数 0人	C	A	令和2年度及び令和3年度については新型コロナウイルスの影響で、全国健康福祉祭大会の開催が見送られていたが、感染防止対策を徹底したうえで、令和4年度から開催。市内から多数の参加者を集め、高齢者の心身の健康や社会参加、生きがいの増進を図り、長寿社会の形成に資することができた。	2	予選会を主催している新潟県社会福祉協議会と協議しながら、PR等を図り、予選会の参加種目を増やすなど、より多くの高齢者の参加につながるよう周知する。	派遣人数 95人
			5,810	4,368	955						
15	ウォーキング チャレンジ事業 (保健所健康増進課)	働き盛り世代の運動習慣定着を図るため、企業・事業所内でチームを組んで参加し、参加者自ら歩数を記録することを通して、歩く機会の増加や定着にチャレンジする事業所ウォーキングチャレンジを2回実施した。また健康づくりのきっかけとなるよう市民を対象としたウォーキングイベントを実施した。	参加事業所数:140事業所 市民向け企画の実施	参加事業所数:183事業所 市民向け企画の実施 (参加者1,498人)	参加事業所数:132事業所 市民向け企画の検討・実施	A	B	事業所ウォーキングチャレンジはアプリを活用したコースを新設、年2回実施し、参加事業所数は目標を上回った。アプリを活用した市民向けのウォーキングイベントを実施した。参加者アンケートでは、99.8%の方が「次年度もぜひ参加したい/参加したい」と回答があった。	2	前年度に続き、事業所ウォーキングチャレンジを年2回、市民向けのウォーキングイベントを年1回実施する。	参加事業所数:190事業所 参加者数(事業所・市民合計):6,000人
			1,387	904	1,903						
16	新潟市障がい者大運動会 (障がい福祉課)	障がいのある方もない方も一緒にスポーツを行うことを通じ、親睦と友情の輪を広げながら「共に生きる喜び」をわかちあい、障がいや障がいのある人への理解を深めるため、「新潟市障がい者大運動会」を開催する。 →当初から中止を決定済	当初から中止を決定済		中止	E	E	新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、令和2年度及び令和3年度の開催について、中止を実行委員会で決定した。	7	今後の開催については、運営方法の見直しを含め実行委員会で再検討する。	当分の間休止
17	学校施設開放事業 (教育委員会 地域教育推進課)	生涯スポーツの振興を図る目的に、学校教育に支障のない範囲で、市立の学校施設等(体育館、武道場、プレイルーム等)を開放する。	164校で実施 (小106・中56・東特支・明鏡高)	164校で実施 (小106・中56・東特支・明鏡高)	164校で実施 (小106・中56・東特支・明鏡高)	B	B	学校施設を開放し、市民の健康増進と競技力の向上を図ることができた。	2	学校施設を開放することにより、市民の健康増進と競技力の向上に繋がっているため。	164校で実施 (小106・中56・東特支・明鏡高)
			27,166	24,966	24,111						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価							R5数値目標	
			R4数値目標	R4実績	(参考)R3実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性		理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
18	体力向上ジャンプアップ 推進事業 (教育委員会 学校支援課)	市内全小・中学校の取組を集約し、冊子にまとめ、全小・中学校に配付した。他校の取組を知ることで、自校の取組みの改善に生かすことにつながった。	すべての小・中学校の取組を学校別に集約し、情報提供	すべての小・中学校の取組を諸観点で類別し学校別に集約。情報提供。	すべての小・中学校の取組を諸観点で類別し学校別に集約。情報提供。	B	B	観点別に集約することで、参考事例として活用しやすくなったため。	2	各校の取組を共有することで、取組の見直しにつながるため。	すべての小・中学校の取組を諸観点で類別し学校別に集約。情報提供。
			0	0	0						
19	子どもの体力向上指導者 養成研修会への 体育教員派遣 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の標記研修会は、感染症対策のため中止となった。	幼稚園、小・中学校から3名の教員を派遣	標記研修会は、感染症対策のため中止となった。	標記研修会はオンラインで実施され、指導主事が受講した。	E	E	感染症拡大防止のため、研修会中止	5	感染症拡大防止のため、研修会中止	幼稚園、小・中学校から2名、指導主事1名を派遣
			188	0	0						
20	小学校幼稚園 体育指導者研修会 (教育委員会 学校支援課)	伝達元であるスポーツ庁主催の研修会が感染症拡大防止のための中止となったが、市内の中堅教員を指導者として、市内小学校の受講者に伝達講習会を実施した。	対象者56人 (秋葉区、南区、西区、西蒲区から各校1名以上)	56人参加 (秋葉区、南区、西区、西蒲区)	対象者51人 (北区、東区、中央区、江南区から各校1名以上)オンラインで実施。市立幼稚園10人	B	A	市内の中堅教員を講師とし、市内の先生方を対象に伝達講習会を行い、当初からの目的であった「運動が苦手な児童生徒へのアプローチ」について研鑽を積むことができたため。	1	学習指導要領への理解を深めることができ、参加者の多くが肯定的回答をしたため。	対象者60人 (北区、東区、中央区、江南区から各校1名以上。全幼稚園から各園1名以上)
			0	0	0						
21	中学校保健体育指導者 研修会 (教育委員会 学校支援課)	伝達元であるスポーツ庁主催の研修会が感染症拡大防止のための中止となったが、指導主事が講師となり、市内中学校の受講者に伝達講習会を実施した。	対象者27人 (秋葉区、南区、西区、西蒲区の学校から各校1名)	25人参加 (秋葉区、南区、西区、西蒲区)	対象者31人 (中央区、東区、北区、江南区の学校から各校1名)オンラインで実施。※中等含む	B	A	指導主事が講師となり、市内の先生方を対象に伝達講習会を行い、当初からの目的であった「運動が苦手な児童生徒へのアプローチ」について研鑽を積むことができたため。	1	学習指導要領への理解を深めることができ、参加者の多くが肯定的回答をしたため。	対象者31人 (北区、東区、中央区、江南区から各校1名以上。)
			0	0	0						
22	中学校柔道実技講習会 (教育委員会 学校支援課)	市内全中学校から各校1名参加し、講習会を実施した。	対象者31人 (北区、東区、江南区、中央区の学校から各校1名) ※中等含む	24人参加 (北区、東区、江南区、中央区) ※中等含む	対象者27人 (秋葉区、南区、西区、西蒲区の学校から各校1名)オンラインで実施。	B	A	市内の中堅教員を講師とし、市内の先生方を対象に伝達講習会を行い、当初からの目的であった「安全な柔道授業の実施」について研鑽を積むことができたため。	1	学習指導要領への理解を深めることができ、参加者の多くが肯定的回答をしたため。	対象者27人 (秋葉区、南区、西区、西蒲区の学校から各校1名)
			0	0	0						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	競技スポーツ:競技力の向上を推進します。
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・充分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価							R5数値目標	
			R4数値目標	R4実績	(参考)R3実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性		理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	ジュニア強化事業 (スポーツ協会)	新潟市からオリンピックなど国際大会で活躍し世界へ羽ばたく選手を育成するため、加盟競技団体と連携し、ジュニア世代(小・中・高校生)を対象とした強化事業を実施する。 ◆ジュニア強化事業 スポーツの振興と競技水準向上を目的に、加盟団体のうちジュニア選手の強化事業を実施している27競技団体に対して、係る経費の一部を助成して支援をした。 ◆にいがたスーパージュニア育成事業(以下、SJ育成事業) ボクシング、柔道、バドミントンの3種目について、新潟市からオリンピックなど国際大会で活躍する選手の輩出を目指し、オリンピック等の国際大会で活躍した選手やコーチを招へいして通年(年10回程度)による選手強化をした。	ジュニア強化事業 実施数 27団体 SJ育成事業数 3事業	ジュニア強化事業 実施数 27団体 SJ育成事業数 3事業	ジュニア強化事業 実施数 27団体 SJ育成事業数 3事業	B	B	ジュニア強化事業は各団体と連携し、実施状況や課題等共通の認識を持って普及活動とともに育成強化を図っている。 SJ育成事業は3競技を継続し実施している。ボクシング・柔道では全国など優秀な成績を収めており、今後も期待ができると思われる。	1 ジュニア強化事業については、スポーツの普及振興や競技力の底上げを担う事業であることから、継続して実施していく。 SJ育成事業については、全国大会の優勝や上位に入賞するなど成果が出ている。今後も加盟団体と連携を図り強化を継続していく。 ヒアリング実施後、他の加盟団体においても実施の意向があり、今後育成強化委員会で検討・協議をしていく。	ジュニア強化事業 実施数 27団体 SJ育成事業数 4事業	
			10,000	10,000	10,000						
2	スポーツ指導者講習会 (スポーツ協会)	新潟市との共催により本市の競技力の向上を図るため、ジュニア強化に携わる指導者や関係者など市民を対象とした研修会を開催する。	講習会開催数 2回	講習会開催数 2回	講習会開催数 2回	B	B	講習会では、チームの組織運営のほか、指導者の役割と指導上の留意点などについて、地域などで活動する指導者の資質向上を図ることができた。	1 多様化する市民や競技団体のニーズに対応するため、今後も弁護士等を講師に迎え開催をしていきたい。	講習会開催数 3回	
			330	27	277						
3	国際大会等出場者激励金	本市を代表して国体や国際大会、小中高生が参加する全国大会に出場する選手、監督等に激励金を支給した。また国際大会や全国大会に出場する障がい者の方に対しても激励金を支給した。	実施	国体出場者 167人 国際大会等出場者 5人 小・中・高校生全国大会出場者 503人 障がい者スポーツ 38人 (※延べ人数)	国体出場者 6人 国際大会等出場者 5人 小・中・高校生全国大会出場者 381人 障がい者スポーツ 6人 (※延べ人数)	B	B	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となっていた大会が、令和4年度は前年以上に再開傾向にあったとみられ、支給件数、支給額ともに増加した。	2 今後も運用を継続し、スポーツの奨励と振興を図る。	実施	
				5,000	3,095						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	競技スポーツ:競技力の向上を推進します。
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し,世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため,競技力の向上を推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価							R5数値目標	
			R4数値目標	R4実績	(参考)R3実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性		理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
4	全国障がい者スポーツ大会選手派遣事業	令和4年10月に栃木県にて開催された第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」に新潟市選手団として個人競技及び団体競技に選手を派遣した。	個人競技 18人	個人競技17名 団体競技7名	派遣なし	A	A	個人競技及び団体競技で計24名の選手を新潟市選手団として派遣した。	2	今後も障がい者の社会参加やスポーツに取り組むきっかけを作るため,より多くの方に出場機会を提供し市選手団を全国障害者スポーツ大会に派遣する。	個人競技 18人
			11,732	11,732	5,433						
5	「目指そう,支えよう,パラリンピアン」障がい者スポーツ推進事業	障がい者スポーツの普及へ向け,体育施設において競技用具を整備し,従来の6施設に2施設を加え,貸出施設数を8施設と拡充した。 ナショナルチーム合宿においては,FIDバスケットボール日本代表合宿を受け入れた。 なお,講習会・体験会はコロナ禍により中止となった。	講演会・体験会の参加者数 20人 競技用具整備施設数 2施設	競技用具整備施設数 2施設	競技用具整備施設数 2施設 ナショナルチーム合宿数 1	D	D	コロナ禍により,講習会・体験会を中止としたため。	2	障がい者スポーツの普及へ向け,体育施設における競技用具の貸出事業を継続して実施する。あわせて,体育施設職員等へ向けた講演会・体験会を実施する。	講演会・体験会の参加者数 20人
			700	514	1,132						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	みるスポーツ:みる機会, 交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに, 地元プロスポーツチームとの連携を推進し, トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し, ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価							R5数値目標	
			R4数値目標	R4実績	(参考)R3実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性		理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	ドキドキ・ワクワクスポーツ ふれあい促進事業	プロスポーツチームを通じ、夢と感動を共有し、青少年の心身の健全育成とスポーツ文化の醸成を図るため開催した。 1. サッカー教室開催(アルビレックス新潟) 期日: 令和4年7月23日～令和4年11月13日 全8区で開催 会場: みどり森の運動公園ほか 2. サッカー指導者派遣(アルビレックス新潟) 期日: 令和4年4月28日～令和4年11月2日 52回 会場: デンカビッグスワンスタジアムほか 3. サッカー観戦招待(アルビレックス新潟) 期日: 令和4年5月4日～令和5年3月26日まで15試合 会場: デンカビッグスワンスタジアム 4. サッカー観戦招待(アルビレックス新潟レディース) 期日: 令和4年12月10日、令和5年3月5日 2試合 会場: 新潟市陸上競技場、デンカビッグスワンスタジアム 5. 野球観戦招待(新潟アルビレックスBC) 期日: 令和4年6月4日、5日 会場: HARDOFF ECOスタジアム新潟 6. バスケットボール観戦招待(新潟アルビレックスBB) 期日: 令和4年10月26日 1試合 会場: 新潟市東総合スポーツセンター 7. バスケットボール観戦招待(新潟アルビレックスBBラビッツ) 期日: 令和4年12月24日、25 2試合 会場: 新潟市鳥屋野総合体育館	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 94人 サッカー観戦招待者数 6,200人 野球観戦招待者数 122組 バスケットボール観戦招待者数 90組	サッカー教室参加者数 302人 サッカー指導者派遣数 94人 サッカー観戦招待者数 8,719人 野球観戦招待者数 126組 バスケットボール観戦招待者数 115組	サッカー教室参加者数 351人 サッカー指導者派遣数 94人 サッカー(男子)観戦招待者数 6,630人 サッカー(女子)観戦招待者数 64人 野球観戦招待者数 154組 バスケットボール観戦招待者数 84組	A	A	観戦招待数等についてすべて目標値を達成した。また、新規観戦の割合が増加し、これまでよりも広くプロスポーツ観戦の機会を提供できた。	2	さらに広報を充実させ、より多くの小中学生にプロスポーツ体験の機会を提供したい。	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 94人 サッカー観戦招待者数 6,200人 野球観戦招待者数 122組 バスケットボール観戦招待者数 90組
			15,800	15,735	16,156						
2	プロ野球招致推進事業	官民が一体となった「プロ野球新潟招致委員会」により、プロ野球公式戦を招致し、観戦招待事業を実施した。 令和4年5月10日(土): 雨天中止、8月15日(日): 試合開催 横浜DeNAベイスターズ vs 読売ジャイアンツ	プロ野球公式戦開催数 1試合	プロ野球公式戦開催数 1試合	プロ野球公式戦開催数 1試合	B	B	プロ野球公式戦の招致試合1試合を実施した。	2	プロ野球公式戦の開催実績を重ねるとともに、観戦招待事業をはじめとする興行支援を行い、機運の醸成を図りながら将来的な球団誘致も視野に入れ、交流人口の拡大、地域活性化につなげていく。	プロ野球公式戦開催数 1試合
			866	826	320						
3	大会、合宿等誘致の推進	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、イベント中止が相次ぐ中、感染拡大状況を注視しながら、全国大会等の開催や合宿受け入れを行った。 ◆全国大会等 第5回女子硬式野球新潟大会、Denkaアスレチックスチャレンジカップ2022、第1回全農 全日本中学生カーリング選手権大会、2022FIDジャパン・チャンピオンシップバスケットボール大会 ◆合宿誘致 FIDバスケ、ユニバーシティゲームズ卓球	国際・全国規模の大会数 1 ナショナルチーム合宿数 2	国際・全国規模の大会数 4 ナショナルチーム合宿数 2	国際・全国規模の大会数 3 ナショナルチーム合宿数 2	A	A	コロナ禍による感染拡大状況を注視しながら、指標を上回る大会数を開催できた。	1	これまでのナショナルチーム合宿の受入れ実績を基に、市内での合宿実績を積み上げることで、市内の競技振興及び交流人口の拡大や、国際・全国大会の誘致・開催につなげる。	国際・全国規模の大会数 1 ナショナルチーム合宿数 2
			2500	1775	1,691						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	みるスポーツ:みる機会, 交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに, 地元プロスポーツチームとの連携を推進し, トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し, ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
 E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
 B・・・一定の成果を得られた
 C・・・想定した成果に少し届かなかった
 D・・・思うような成果を得られなかった
 E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
 7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価							R5数値目標	
			R4数値目標	R4実績	(参考)R3実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性		理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
4	氷上スポーツイベント 開催事業	国内のトップスケーターや県内選手によるフィギュアスケート演技発表会等を開催することで, トップスケーターの技術に触れる機会を提供するとともに, 全国の選手を中心とした競技会等を開催することで, フィギュアスケートの発展と技術レベルの向上を目指す。 また, アイスアリーナの利用促進を目的として, 多様なイベントを開催した。 OMGC三菱ガス化学アイスアリーナトロフィー(フィギュアスケート大会) 令和4年8月20日(土)・21日(日) ○謎解きアイスアリーナからの脱出～ヒエヒエ団の野望を阻止せよ～ 令和4年12月24日(土)～令和5年1月31日(火) ○氷上のプラネタリウム 令和5年2月18日(土)・19日(日) OMGC三菱ガス化学アイスアリーナ大感謝祭 令和5年3月26日(日)	競技会参加者数 58人	①アイスアリーナ利用促進イベントを開催 参加者数 謎解きイベント:2,716人 氷上のプラネタリウム:250人 大感謝祭:525人 ②MGC三菱ガス化学アイスアリーナトロフィー 競技会参加者数 169人	①アイスアリーナイベント見送り, 別イベントを開催 参加者数 氷上プラネタリウム:547人 氷上水族館:599人 ②MGC三菱ガス化学アイスアリーナトロフィー 競技会参加者数 69人	A	A	新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら, 新潟市アイスアリーナを拠点とした競技会を開催し, 市内・県内をはじめ, 全国のフィギュアスケートの発展と競技レベルの向上に寄与した。また, アイスアリーナの利用促進を目的として, 多様なイベントを開催した。	2	参加選手にとって, 本競技会への参加・功績が競技生活におけるアドバンテージとなるよう, 有名選手も参加するなど, 知名度ある大会への成長に向けて, 引き続き指定管理者や関係機関と連携をし, 大会内容の充実を図っていく。	競技会参加者数 170人
5	国際ユースサッカー in新潟の開催	令和4年9月17日(土)～19日(祝・月) デンカビッグスワンスタジアム 他 参加チーム 海外招待 U17代表(イラン, コモロ) U17日本代表 U17新潟選抜	開催回数 1回	開催回数 1回	中止	A	A	コロナ禍による感染拡大状況を注視しながら, 予定どおり開催できた。	2	ユースのトップチームによるレベルの高いゲームを本市を含む県内各地で開催することにより, サッカー機運の醸成及び地区サッカー協会の運営能力の向上に大きな役割を果たしている。 ※昭和63年からの全国ユースサッカー大会を前身とし, 平成9年より「国際ユースサッカーin新潟」として毎年開催し, 令和元年度で23回目を迎えた。	開催回数 1回
6	日韓交流少年サッカー の開催	日韓の小学生世代における国際交流と競技力の向上を目的に開催し, 韓国蔚山市サッカー協会と新潟市サッカー協会の相互交流が図られている。(平成12年度から実施) 令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響により交流を中止中	交流の継続	中止	中止	E	E	新型コロナウイルス感染症の影響により交流は未実施	2	今後も相互交流を続けることを両協会から確認している。	交流の継続

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価							R5数値目標	
			R4数値目標	R4実績	(参考)R3実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性		理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	スポーツ施設の管理運営・整備	スポーツの普及振興を図り、市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与するため、本市が設置するスポーツ施設の管理運営を行う。また、スポーツ施設の運営が円滑に行われるよう必要な補修工事を行う。	施設利用者数 3,200,000人	施設利用者数 3,002,579人	施設利用者数 約2,540,000人	C	B	令和4年度の目標がコロナ禍前の水準であったため、目標には及んでいないものの、利用者数が前年比で約18%の増加と大きく改善された。また、ガイドラインを適宜改定するなど、施設の利用環境を社会情勢を踏まえた柔軟な対応により向上を図った。	2	市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活のため、引き続き適切なスポーツ施設の管理運営及び必要な補修工事を行う。	施設利用者数 3,200,000人
2	スポーツ施設の整備・改修方針の検討	昭和39年開催の新潟国体に合わせて整備された施設など老朽化が進んでいる施設もあり、大規模な改修や更新、施設の集約化を計画的に行う必要があることから、スポーツ施設の整備・改修方針の検討を行う。	公共施設再編案の推進	関係団体に対してアンケート調査を実施	財務部において公共施設再編案策定 関係団体に対し説明会を実施	B	B	前年度、市スポーツ協会を中心に競技団体からより丁寧なコミュニケーションやスポーツ施設全体の施策が必要との申し出を受けたことを受け、関係団体に対してアンケート調査を実施した。	2	引き続き関係団体との連携を図るとともに、有識者等による施設の「未来構想会議」を立ち上げて議論を深めていく。	スポーツ施設に関する「未来構想会議」の立ち上げ
3	スポーツと音楽功労者表彰事業	スポーツと音楽芸能の振興及び発展を目的に、功績が顕著な個人または団体を表彰している。 表彰数:スポーツ関係512件(令和5年3月31日現在)	実施	実施 (スポーツ関係5名)	実施 (スポーツ関係8名)	B	B	市スポーツ協会を通じ競技団体などからの推薦に基づき、スポーツ・音楽功労者選考会議に諮り、適正に表彰を行った。 また、市報にいがたや市HPを通じて表彰の詳細を公開することにより、「スポーツと音楽都市宣言」の意義・理念を市民に伝えている。	2	今後も、本市のスポーツと音楽芸能の振興及び発展に尽くした功労者を表彰し、スポーツを支える環境づくりを進める。	実施
				310	426						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	支えるスポーツ: スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価								R5数値目標			
			R4数値目標		R4実績		(参考)R3実績		達成度	充実度		理由・原因	事業の方向性	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
4	スポーツ推進委員の活動推進	地域スポーツの推進役となるスポーツ推進委員の資質向上を目的に新潟県スポーツ推進委員会兼市スポーツ推進委員連盟自主研修会、新年研修会、新任者研修会を開催した。	研修会開催数 2回 参加者数 計200人	研修会開催数 3回 参加者数 計245人	研修会開催数 1回 参加者数 計68人	A	B	R4は県大会の開催市だったことから市自主研修会を兼ねて実施したため、スタッフとして参加する委員も多くいた。また、新年研修会と新任者研修会も実施したことで、目標を上回る結果となった。	2	自主研修会、新年研修会を実施する予定。	研修会開催数 2回 参加者数 計200人			
5	スポーツ振興会の育成・支援	スポーツ振興会の中心的役割を担うマネージャーの育成と資質向上のため研修会を開催した。	研修会開催数 1回 参加者数 160人	研修会開催数 1回 参加者数 84人	研修会開催数 1回 参加者数 68人	D	C	NPO法人全国ラジオ体操連盟1級ラジオ体操指導士関川正明氏を講師に招き、実技研修会を開催。コロナ禍においても自宅でもできるラジオ体操の、指導・助言に必要な知識の習得を行った。	2	今後も市スポーツ推進委員連盟などと連携し、充実した研修会が開催できるよう内容を協議し、実施していきたい。	研修会開催数 1回 参加者数 160人			
6	スポ柳都にいがた指導員養成研修会	ジュニア層の指導者の養成・資質向上のため、研修会を開催した。本研修会修了者を少年少女スポーツ大会の指導者資格の一つとしている。 令和4年7月30日 会場: 秋葉区文化会館 講師: 渋谷崇行氏(一社)スポーツフォーキッズジャパン代表)	参加者数 100人	参加者数 35人	参加者数 89人	D	B	例年開催している東区プラザが使用できず、秋葉区文化会館へ会場変更になったこと、コロナウイルス感染症の影響もあり、参加者数は目標には遠く及ばなかったが、参加者アンケートの結果では、研修内容について「参考になった」との回答が97.2%(昨年度96.5%)となり、昨年度を上回る結果となった。	1	参加者アンケートより、「シーズンオフ(1~3月)開催」を望む声が増加したことを受け、年2回開催が実現(市スポ協との共催も含む)。今後もアンケートを踏まえ参加者のニーズに沿った講演内容を検討し指導者の資質向上のための一助となる研修会を実施していく。	参加者数 100人			
7	スポーツボランティアの育成	例年10月に開催している新潟シティマラソンにおいて、救護や給水、手荷物返却などの業務に従事するボランティアを公募している。	シティマラソン学生・企業・一般公募ボランティア数 600人	シティマラソン学生・企業・一般公募ボランティア数 621人	シティマラソン代替イベント一般公募ボランティア数 36人	B	B	新型コロナ禍での開催のため、過年度大会と同数のボランティアを確保できなかったが、協力いただけたボランティア数で事故なく大会運営を行うことができた。	2	例年開催規模での学生・企業・一般公募ボランティアの募集を進める。	シティマラソン学生・企業・一般公募ボランティア数 600人			

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	支えるスポーツ: スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価							R5数値目標	
			R4数値目標	R4実績	(参考)R3実績	達成度	充実度	理由・原因	事業の方向性		理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	スポーツ少年団の育成 (スポーツ協会)	スポーツ少年団の普及・育成および活性化を図るため、登録業務や大会等を実施した。 なお、少子化等により登録数の減少傾向にある。	登録団体数 115団体	登録団体数 112団体	登録団体数 116団体	C	B	少子化等の影響による団体の合併・解散で登録団体数は減少傾向にあるものの、登録団による大会等を通じて育成及び活性化等の質的向上を図った。	2	スポーツ少年団活動は、地域におけるスポーツ活動の拠点として、スポーツの普及振興、青少年の健全育成に寄与していることから、今後も大会の開催や指導者の資質向上を図るため指導者研修会等を継続的に実施していく。	登録団体数 115団体
			772	651	215						
2	公共交通の強化及び 利用促進 (スマートウェルネスシティの推進) (都市交通政策課)	新バスシステムの段階的な機能向上により、過度な自動車利用から公共交通利用への転換を図り、公共交通利用による外出機会の増加を促す施策を展開する。	実施	実施	実施	B	B	下記事業を計画通り実施し、公共交通の機能強化や利用促進に寄与したため。 ◇モビリティ・マネジメントの推進 ◇「シニア半わり」の継続実施 ◇BRTの改善に係る検討・交通結節点等の施設整備 ◇PR活動の強化 ◇新バスシステム事業評価委員会の運営	2	下記事業について、R3年度より引き続き実施しているため。 ◇モビリティ・マネジメントの推進 ◇「シニア半わり」の継続実施 ◇BRTの改善に係る検討・交通結節点等の施設整備 ◇PR活動の強化 ◇新バスシステム事業評価委員会の運営	実施
			399,010	338,562	196,246						
3	自転車利用環境の整備 (スマートウェルネスシティの推進) (土木総務課)	歩行者の安全確保、自転車の交通事故の削減、自転車利用の促進を目的に、自転車走行空間の整備、自転車利用ルール・マナーの啓発を推進した。	自転車走行空間整備 の延伸 (目標延長L=3.5km)	自転車走行空間整備 の延伸 (目標延長L=5.3km)	・自転車走行空間整備 の延伸 (目標延長L=2.3km) ・自転車利用に関する 啓発のため、学校等 へのチラシ送付(1回)	A	A	自転車走行空間整備は国の交付金を活用して整備しているため、他事業との調整の結果、想定を上回る整備を行うことができた。	1	自転車走行空間整備を引き続き推進していくほか、自転車ルール・マナーの啓発活動の充実を図る。	自転車走行空間整備 の延伸 (目標延長L=8.3km)
			2,000	15,994	13,076						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 令和4年度 進行管理調書(実施事業別)

基本方針	スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制 :スポーツ情報ネットワークとスポーツ医科学支援体制を充実します。
基本目標	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った
E・・・評価不能

A・・・十分な成果を得られた
B・・・一定の成果を得られた
C・・・想定した成果に少し届かなかった
D・・・思うような成果を得られなかった
E・・・評価不能

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了
7・・・その他

No.	事業名 (所管課)	事業内容(取り組みの結果)	事業別自己評価						R5数値目標		
			R4数値目標	R4実績	(参考)R3実績	達成度	充実度	理由・原因		事業の方向性	理由・原因
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)						
1	目指せオリンピック! 医科学サポート事業 (スポーツ協会) (スポーツ振興課)	にいがたスーパージュニア育成事業の実施にあわせてスポーツトレーナー等の派遣や県医科学センターを活用し、傷害予防やコンディショニング調整を目的に競技力の向上を図る。 競技団体:柔道・ボクシング・バドミントン	スポーツトレーナー派遣 競技団体数3団体	スポーツトレーナー派遣 競技団体数3団体	スポーツトレーナー派遣 競技団体数3団体	B	A	練習面と傷害予防・コンディショニング調整等の一体化により競技力向上に寄与することから、コンディショニングの調整についてはスポーツトレーナーのほか県医科学センターを活用しながら更なる競技力向上を図っている。	1	実施団体と現状等について共有を図りながら、オリンピックや国際大会等に出場・活躍する選手を継続的に輩出していくため強化指定選手を医科学面で更にサポートの支援をしていく。	スポーツトレーナー派遣 競技団体数4団体
			750	750	750						
2	公共予約システムの運用	市民がいつでも気軽にスポーツ施設を利用できるよう、インターネットによる施設予約システムの充実・運用を図る。	システム利用件数 30,000件	システム利用件数 約28,500件	システム利用件数 約30,000件	C	B	前年比5%減とほぼ横ばいながら目標に届かなかったが、施設の専用利用者数は昨年比で増加した。件数の減少は大会等の複数コマ分をまとめた利用があったことが影響しているものと考えられる。	2	市民の利便性のため、施設予約システムの運用を継続し、必要な運用改善を図る。	システム利用件数 30,000件
					0						
3	スポーツ振興課 ホームページ	スポーツに関する施設、大会・イベント、団体などの情報について、市民への情報提供を行う。	アクセス数 900,000件	アクセス数 約750,000件	アクセス数 約970,000件	C	B	感染状況の落ち着きに伴い、年度後半はアクセス数が落ち込んだものの、必要な情報を必要な方に届けることが出来たと捉えている。	2	コロナの5類移行を見据えた施設の対応についての情報を迅速に発信する。 シティマラソンやヒルクライムなどのイベントページへのアクセスが多いことから、情報の更新や充実に努める。	アクセス数 700,000件
					0						